

『幼稚園の現場から』

20・ITと幼児教育

原町幼稚園園長 鶴谷主一（静岡県沼津市）

スマホと乳幼児

マガジン18号で保護者のアナログゲーム大会をご紹介した回に、冒頭で子どもたちが早い時期からデジタルデバイス（スマホやタブレットなど）に触れていることとを書きました。もっとうんとおなかの中にいるときから母親が使い、生まれてすぐに携帯（スマホ）で写真を撮られて知人に送信され、授乳中には母親がメールをしているような環境の中で子どもたちは育ってきているのでしょうか。

2015年2月9日に女子高生のスマホ使用時間は平均一日7時間というニュースが報道されました。↓

<http://mainichi.jp/select/news/20150210k0000m040049000c.html>

日中の大半をパソコンと向き合って仕事をしている自分の仕事環境を考えても、既に驚くことでは無いのかもしれませんが、発達途上の子どもたちが、長時間メディアに接触していることで、本来発達すべき身体、精神のなにかが不十分だったり、欠落してしまうことが懸念されます。ただ、今回はそのことを検証するより、ITと幼児教育の“いま”についてレポートしたいと思います。

ITとICTのちがい

そもそもITとICTと二つのことばが巷に飛び交っておりますが、自分でもよくわからなかったのでどう違うのか調べてみました。

ITとはInformation Technologyの略。Information Technology（インフォメーション・テクノロジー）とは、一般に情報技術と訳されコンピュータやインターネット技術の総称となっている。EコマースやSNS・ブログ・スカイプ・ホームページの普及など、21世紀の革新的な技術の発展に繋がっている。ICTとは、Information and Communication Technology（インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー）の略。

日本語では一般に“情報通信技術”と訳される。

ICTの活用が期待される分野は、医療、介護・福祉、教育などの公共分野への貢献が期待されている。具体的には、総務省の施策する“ICTふるさと元気事業”、文部科学省の“学校ICT環境整備事業”などがある。これらのICT事業により、地域の人材育成、雇用の創出、地域サービスの向上を図ろうというのが施策の目的である。

ほぼ同じ意味だということがわかりました。

ITが経済の分野で使われることが多いのに比べ、ICTは主に公共事業の分野で使われることが多い。これは、ITとは経済産業省の用いる用語であるのに対して、ICTは総務省の用いる用語だから。

ここでは [IT] を使わせて頂きます。

学校でのIT教育はどんどん進んでいます、しかし幼児教育にIT教育が進んでいるかという点、学校に比べて導入は進んでいません。（9割以上は未導入ということですが）場合によっては遅れている？という言い方をされるかもしれませんが、なぜでしょう？

私見ですが、

- ① 幼児期の教育は「あそびや直接体験を通して教育する」ことが大前提であり、そんな中でIT機器を用いて系統的学習のようなカリキュラムを実施することに抵抗があるし、必要性も感じていない。
- ② さらに幼稚園教員や保育士は、ピアノを弾いたり、絵を描いたり、製作をしたりという実務的なスキルの習得やあそびの環境設定や研究、日常業務に時間がかかり、IT教育まで手が回らないのが実情。
- ③ すでに、家庭の中には多様なIT機器があり、ゲーム機やスマホなどは日常的に幼児が使って遊んでいる事実があるので、ただでさえメディア接触時間が増えている昨今に園に居る時間までメディアに触れさせることに抵抗があ

る。せめて園にいる間はメディアから遠ざけようという意志が働いている。(実際私の園では幼稚園も保育園もテレビ、ビデオ視聴もしていない。)

幼児教育はこのままでいいよ、

と言いたいところですが、ついにこの未開拓の市場(企業の方がやってきたので市場という言葉の方をしました)へ開拓者がやってきました。

2014年11月22日

おそらく幼児教育関係者に公募された初めての大规模なIT系研修会が開かれました。

国内最大シェアの乳幼児向けアプリ制作会社、(株)スマートエデュケーション社の主催で、東京大学を会場に「幼稚園、保育園のIT教育カンファレンス2015」という会が開催されたのです。さすがにITの専門会社ですね、HPに詳細がアップされていますので、概要はこちらでご覧下さい。

▶カンファレンスの概要

http://kdkits.jp/event/report_141122/

▶カンファレンスはKitsという幼児向けIT体験カリキュラムの考えに基づいて行われています。

<http://kdkits.jp/>

▶スマートエデュケーション社

<http://smarteducation.jp/>

▶親子で利用するための5つの提言

<http://smarteducation.jp/principles.html>

以上、ざっとリンクを見ていただいた方にはわかりかと思いますが、スマートエデュケーション社は、幼児向けアプリを開発販売する傍ら、社長の「世界中の子ども達の“いきる力”を育てたい」という理念のもと、幼児教育関係者と協力して研究開発してKitsを進めようとしています。理念とともにプログラムを販売するというシェア拡大も目論んでのことですが、そこは公的な研究機関ではなく企業が行うことなので、そうなるでしょう。

21世紀型スキルとは?

正直、やってきた開拓者がスマートエデュケーション社で良かったと思いました。自分はまだ導入するには至っていませんが、小学校以上の学習ソフトがそのまま「知育」という冠をか

ぶって降りてくるのでは、幼児教育にそぐわないからです。Kitsは、子どものあそびの目線や、子ども相互のコミュニケーションの活性化のためにデバイスを利用するというように、道具として使いこなすことを目的として考えられているから、方向性は評価できるのです。

先ほどリンクで見落とした方は、こちらにKitsのキーパーソン、東京大学大学院情報学環 准教授の山内祐平氏の基調講演がまとめてありますので、ご覧頂くとなぜIT教育が必要なのかわかります。

▶子どもたちに必要な21世紀型スキル

http://kdkits.jp/keyperson/int_yamauchi.php

今回は私もまだ踏み込んでいない領域、幼児教育のIT導入の先進例の紹介でしたが、山内先生がインタビュー動画でお話になっていたように、「どういう理念を持って導入・実施するか」が大事で、園の特色や園児募集のためのツールとなっては本末転倒で、IT教育の事例も深められないし、子どもたちが被害を被ることになるのではないかと思います。

私は子どもたちが幼稚園にいる短い時間に寸暇を惜しんで身体を動かし、友だちと関わり、保育者や大人と関わりながら体験的に発達していくことを援助するだけで精一杯という気がしています。ただ世の中は留まってはいませんので、研究者の皆さんや企業の皆さんが情熱を持って取り組んでいけば可能性を発揮するカリキュラムが生まれてきて幼児教育の姿も変わっていくのかもしれない。子どもはしっかり注視していく必要があると思います。

「幼稚園の現場から」マガジンラインナップ

- 第1号 エピソード
- 第2号 園児募集の時期
- 第3号 幼保一体化第
- 第4号 障害児の入園について
- 第5号 幼稚園の求活
- 第6号 幼稚園の夏休み
- 第7号 怪我の対応
- 第8号 どうする保護者会?
- 第9号 おやこんぼ
- 第10号 これは、いじめ?
- 第11号 イブニング保育
- 第12号 ことばのカリキュラム
- 第13号 日除けの作り方
- 第14号 避難訓練
- 第15号 子ども子育て支援新制度を考える
- 第16号 教育実習について
- 第17号 自由参観
- 第18号 保護者ゲーム大会(アナログ)
- 第19号 こんな誕生会はいかが?

